

# 目次

巻頭言	1
活動日誌	2
事業概要	9
組織の構築	11
学内連携の概要と活動報告	15
学外連携の概要と活動報告	16
プログラムの概要と成果	17
① 大学院教育	17
② 学部教育	23
③ 社会人教育	27
④ 見える放射線実習	32
その他の活動報告	35
① オープンキャンパス	35
② 外部評価委員会	36
③ 運営委員会	42
自己評価	43



## ■ 巻頭言

原子力利用における安全の確保は、日本国内のみならず、国際的にも重要な課題であり、厳格かつ質の高い原子力規制を担う人材を、効果的・効率的・戦略的に育成することが求められています。加えて、原子力関連の知識を備え、各分野をつなぎながら課題解決を担うリーダーを養成することも重要です。



新潟大学では、原子力規制庁が実施する原子力人材育成等推進事業費補助金の採択を受け、令和4年10月から5年度にわたり、「原子力科学・災害科学の融合による高度原子力規制人材の育成」を推進しています。

本学では、総合大学としての強みを活かし、原子力科学、災害科学、災害医療を有機的に結び付けながら、大学院教育、学部教育、社会人教育の三つの教育プログラムを展開しています。これにより、自然災害・原子力・災害医療に関する知識を備えた高度原子力規制人材を育成するとともに、原子力災害時に地域の命と健康を守ることのできる中核的・実践的なリーダーの養成を目指しています。

皆様におかれましては、本事業の趣旨にご理解を賜り、ご参加、ご協力をいただくとともに、今後とも事業の発展にご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和8年3月末日  
研究統括機構長 小野寺 理

## ■活動日誌

### 令和4年（2022年）

- 7月21日 原子力規制人材育成事業に採択
- 8月29日 長岡技術科学大学との打ち合わせ
- 9月13日 南相馬市との打ち合わせ
- 9月15日 東京電力ホールディングスとの打ち合わせ
- 10月7日 統括センター・運営委員会を設置
- 10月7日 統括センタースタートアップミーティング開催
- 10月14日～12月27日 見える放射線実習の実施
- 10月19日 大熊町との打ち合わせ
- 10月25日 東京電力ホールディングス及び長岡技術科学大学との打ち合わせ
- 10月28日 運営委員会にて特任准教授公募要項について書面審議・承認
- 11月9日 日本分析センターとの打ち合わせ
- 11月21日 運営委員会にて特任教員等選考委員会の立ち上げについて書面審議・承認
- 11月30日 統括センター11月度打ち合わせ
- 12月2日 運営委員会にて特任教員の採用について書面審議・承認

### 令和5年（2023年）

- 1月4日 日高昭秀特任准教授着任
- 1月6日 統括センター1月度打ち合わせ
- 2月13日 新潟県防災局と打合せのため新潟県庁訪問（日高特任准教授、後藤真一准教授、後藤淳助教、春日）
- 2月14日 統括センター2月度打ち合わせ
- 2月16日 学部プログラム（マイナー学修パッケージ）の開設が新潟大学教育基盤機構で承認
- 2月16日 成果報告会（三菱総合研究所実施）出席
- 3月1日 日本分析センターとの打ち合わせ（オンライン）
- 3月1日 運営委員会にて履修証明プログラム実施計画書について書面審議・承認
- 3月2日 大学院プログラム（特色ある教育プログラム）が新潟大学自然科学研究科運営委員会で承認
- 3月3日 キックオフシンポジウム開催
- 3月7日 統括センター3月度打ち合わせ
- 3月8日 大熊町との打ち合わせ（オンライン）
- 3月10日 日本原子力研究開発機構との打ち合わせ（オンライン）
- 3月13日 学長より履修証明プログラムの開設が許可される
- 3月24日 令和4年度外部評価委員会
- 3月30日 令和4年度第1回原子力規制人材育成事業運営委員会

- 3月31日 量子科学技術研究開発機構との打ち合わせ（オンライン）
- 4月4-5日 学部副専攻プログラムパッケージ型マイナーガイダンス
- 4月7日 令和5年度第1回大学院プログラムガイダンス
- 4月7日 令和5年度第1回統括センター打ち合わせ
- 4月14日 新潟県防災局打ち合わせ
- 4月14日 新潟日報取材
- 4月26日 東京電力ホールディングスとの打ち合わせ
- 4月26日 東北放射線科学センター、東北エネルギー懇談会との打ち合わせ
- 5月12日 令和5年度第2回大学院プログラムガイダンス
- 5月26日 令和5年度第2回統括センター打ち合わせ
- 6月15日 運営委員会にて履修証明プログラム募集要項について書面審議・承認
- 6月20日 令和5年度第3回統括センター打ち合わせ
- 7月1日 令和5年度の履修証明プログラム履修生の募集を開始（締切7月31日）
- 7月7日 福島県大熊町と協定締結式（オンライン）
- 8月1日 令和5年度第4回統括センター打ち合わせ
- 8月4日 日本分析センター連結協定締結
- 8月21日 学部プログラム柏崎刈羽原子力発電所見学  
吉澤厚文先生（長岡技術科学大学・東京電力ホールディングス）「原子力の未来と災害を考える」にて講義
- 8月21-24日 原子力規制キャリア教育（東京電力ホールディングス 柏崎刈羽原子力発電所）
- 8月21-25日 原子力規制キャリア教育（原子力規制庁）
- 8月22日 田中稔先生（福島県南相馬市元総務部長）「原子力の未来と災害を考える」にて講義
- 8月24日 運営委員会にて履修証明プログラムの履修希望者の履修許可について書面審議・承認
- 9月5日 令和5年度第5回統括センター打ち合わせ
- 9月5日 履修証明プログラム専門部会にて履修証明プログラム実施計画書の変更案を審議
- 9月11日 運営委員会にて履修証明プログラム実施計画書の変更案が書面審議・承認
- 9月11日 石井慶造先生、緑川勇二先生（東北放射線科学センター）、米山哲也先生（東北エネルギー懇談会）が「放射線入門と実習」にて講義
- 9月13-14日 大学院プログラム福島見学（福島第一原子力発電所、中間貯蔵施設等）
- 9月19-29日 原子力規制キャリア教育（日本原子力研究開発機構）
- 9月19-22日 原子力規制キャリア教育（福島県大熊町役場）
- 10月4日 令和5年度第3回大学院プログラムガイダンス
- 10月7日 履修証明プログラムオンライン入学式

- 10月26日 山本 哲也先生（原子力規制庁 長官官房 放射線防護企画課 放射線防護制度研究官）、山田 知穂先生（原子力規制庁 原子力規制部 原子力規制企画課 原子力規制制度情報分析官）が「原子力規制学総論」にて講義
- 10月27日 令和5年度第6回統括センター打ち合わせ
- 11月2日 近藤寛子先生（Matrix K）が「原子力規制学総論」にて講義
- 12月11日 令和5年度第7回統括センター定例会議（打ち合わせから名称変更）

#### 令和6年（2024年）

- 1月22日 令和5年度第8回統括センター定例会議
- 2月9日 吉澤厚文先生（長岡技術科学大学・東京電力ホールディングス）が「原子力と倫理」にて講義
- 2月21日 令和5年度第9回統括センター定例会議
- 2月23日 履修証明プログラム 放射線計測実習・放射線モニタリング実習
- 2月26日 - 3月1日 原子力規制キャリア教育（日本分析センター）
- 3月18日 令和5年度第10回統括センター定例会議
- 3月18日 令和5年度第1回原子力規制人材育成事業運営委員会
- 3月21日 令和5年度外部評価委員会
- 3月22日 長岡技術科学大学 第12回原子力安全フォーラム「原子力人材育成と大学・高専連携」にて「新潟大学における原子力規制人材育成事業の取組み」について講演
- 4月4-5日 令和6年度学部副専攻プログラムパッケージ型マイナーガイダンス
- 4月5日 令和6年度第1回大学院プログラムガイダンス
- 4月12日 令和6年度第2回大学院プログラムガイダンス
- 4月17日 令和6年度第1回統括センター定例会議
- 5月7日 加藤貢先生（日本原子力研究開発機構）「放射性廃棄物処理法」にて講義
- 5月8日 令和6年度第3回大学院プログラムガイダンス
- 5月23日 オープンキャンパス打合せ
- 5月29日 令和6年度第2回統括センター定例会議
- 6月7日 新潟県防災局打合せ
- 6月24日 履修証明プログラムにおける時間数認定の承認
- 7月1日 令和6年度の履修証明プログラム履修生の募集を開始（締切7月31日）
- 7月18日 竹澤宏樹先生（長岡技術科学大学）「原子力入門」にて講義
- 7月20日 履修証明プログラム 放射線計測実習・放射線モニタリング実習
- 7月30日 令和6年度第3回統括センター定例会議
- 8月6-7日 大学院プログラム福島見学（福島第一原子力発電所、中間貯蔵施設等）
- 8月8-9日 オープンキャンパス

- 8月19-23日 原子力規制キャリア教育（日本原子力研究開発機構）
- 8月21日 学部プログラム柏崎刈羽原子力発電所見学  
吉澤厚文先生（長岡技術科学大学・東京電力ホールディングス）「原子力の未来と災害を考える」にて講義
- 8月22日 坂下拓也先生、松嶋一寛先生（南相馬市教育委員会）、志賀博英先生（大熊町）が「原子力の未来と災害を考える」にて講義
- 8月26-30日 原子力規制キャリア教育（原子力規制庁）
- 8月27日 運営委員会にて履修希望者の履修許可について書面審議・承認
- 9月2日 石井慶造先生、八柳善隆先生（東北放射線科学センター）、五十嵐寛先生（東北エネルギー懇談会）が「放射線入門と実習」にて講義
- 9月2-5日 原子力規制キャリア教育（東京電力ホールディングス 柏崎刈羽原子力発電所）
- 9月9-10日 浜通り環境放射線研修を見学
- 9月9-11日 新潟県防災局キャリア教育
- 9月14日 長岡技術科学大学の技大祭にて「見える放射線実習」を実施（後藤淳准教授）
- 9月30日 令和6年度第4回統括センター定例会議
- 10月1日 令和6年度履修証明プログラムオンライン入学式
- 10月4日 令和6年度第4回大学院プログラムガイダンス
- 10月10日 令和6年度第5回大学院プログラムガイダンス
- 10月24日 山田 知穂先生（原子力規制庁 原子力規制部 原子力規制企画課 原子力規制制度情報分析官）が「原子力規制学総論」にて講義
- 10月31日 近藤寛子先生（Matrix K）が「原子力規制学総論」にて講義
- 11月1日 令和6年度第5回統括センター定例会議
- 11月7日 瀬下拓也先生（日本エヌ・ユー・エス(株)エネルギー技術ユニット）が「原子力規制学総論」にて講義
- 11月14日 山本哲也先生（原子力規制庁 長官官房 放射線防護企画課）が「原子力規制学総論」にて講義
- 12月4日 長岡技術科学大学東電研究室（地域防災実践研究センター）訪問
- 12月10日 ワークショップ開催
- 12月16日 令和6年度第6回統括センター定例会議

#### 令和7年（2025年）

- 1月24日 吉澤厚文先生（長岡技術科学大学・東京電力ホールディングス）が「原子力と倫理」にて講義
- 1月27日 令和6年度第7回統括センター定例会議
- 2月7日 大場恭子先生（日本原子力学会）が「原子力と倫理」にて講義
- 2月12日 大熊町との打ち合わせ
- 3月7日 令和6年度第8回統括センター定例会議

- 3月3-7日 原子力規制キャリア教育（日本分析センター）
- 3月12日 令和6年度第1回原子力規制人材育成事業運営委員会
- 3月18日 令和6年度外部評価委員会
- 4月7-8日 令和7年度学部プログラムマイナー・プログラムガイダンス
- 4月9日 令和7年度第1回大学院プログラムガイダンス
- 4月11日 令和7年度第2回大学院プログラムガイダンス
- 4月25日 令和7年度第1回統括センター定例会議
- 5月7日 加藤貢先生（日本原子力研究開発機構）「放射性廃棄物処理法」にて講義
- 5月13日 加藤貢先生（日本原子力研究開発機構）「放射性廃棄物処理法」にて講義
- 5月20日 藤山哲雄先生（原子力発電環境整備機構）「放射性廃棄物処理法」にて講義
- 5月22日 オープンキャンパス打合せ
- 5月27日 石川 洋一先生（環境省）「放射性廃棄物処理法」にて講義
- 6月2日 令和7年度第2回統括センター定例会議
- 7月1日 令和7年度の履修証明プログラム履修生の募集を開始（締切7月31日）
- 7月2日 志賀博英先生（大熊町）が「原子力の未来と災害を考える」にて講義
- 7月9日 令和7年度第3回統括センター定例会議
- 7月9日 坂下拓也先生（南相馬市教育委員会）が「原子力の未来と災害を考える」にて講義
- 7月12日 履修証明プログラム 放射線計測実習・放射線モニタリング実習
- 7月17日 竹澤宏樹先生（長岡技術科学大学）「原子力入門」にて講義
- 7月17日 運営委員会にて履修証明プログラムにおける時間数認定について書面審議・承認
- 8月5日 石井慶造先生、渡邊英樹先生（東北放射線科学センター）、五十嵐寛先生（東北エネルギー懇談会）が「放射線入門と実習」にて講義
- 8月7-8日 オープンキャンパス
- 8月18-22日 原子力規制キャリア教育（原子力規制庁）
- 8月25-29日 原子力規制キャリア教育（原子力発電環境整備機構）
- 8月28日 運営委員会にて令和7年10月生履修希望者の履修許可について書面審議・承認
- 8月29日 令和7年度第4回統括センター定例会議
- 9月4日 大阪大学放射線科学基盤機構との打合せ
- 9月8-12日 浜通り環境放射線研修
- 9月11日 令和7年度第1回原子力規制人材育成事業運営委員会にて令和5年10月生の履修証明プログラム修了認定申請・期間延長申請について審議・承認

- 9月14日 長岡技術科学大学の技大祭にて「見える放射線実習」を実施（後藤淳准教授）
- 9月18日 学部プログラム柏崎刈羽原子力発電所見学  
吉澤厚文先生（長岡技術科学大学・東京電力ホールディングス）「原子力の未来と災害を考える」にて講義
- 9月24日 令和7年度履修証明プログラム修了式
- 9月24-10月8日 原子力規制キャリア教育（原子力研究開発機構）
- 9月24-26日 原子力規制キャリア教育（東京電力ホールディングス 柏崎刈羽原子力発電所）
- 9月29-30日 大学院プログラム福島見学（福島第一原子力発電所、中間貯蔵施設等）
- 10月1日 新潟日報記事掲載 掲載日：2025年10月01日、面名：2社 (C)新潟日报社 無断での転載、改変、複製、頒布を禁止します



- 10月1日 令和7年度第3回大学院プログラムガイダンス
- 10月7日 令和7年度第5回統括センター定例会議
- 10月11日 浜通り環境放射線研修成果発表会（大阪大学）
- 10月15日 令和7年度履修証明プログラムオンライン入学式
- 10月23日 近藤寛子先生（Matrix K）が「原子力規制学総論」にて講義
- 10月29日 浜通り環境発展放射線実習試料測定
- 11月6日 山田知穂先生（原子力規制庁 原子力規制部 原子力規制企画課 原子力規制制度情報分析官）が「原子力規制学総論」にて講義
- 11月13日 山本哲也先生（原子力規制庁 長官官房 放射線防護企画課）が「原子力規制学総論」にて講義
- 11月20日 瀬下拓也先生（日本エヌ・ユー・エス(株)エネルギー技術ユニット）が「原子力規制学総論」にて講義
- 12月3日 令和7年度第6回統括センター定例会議
- 12月11日 運営委員会にて総合学術研究科への改組に伴う大学院プログラム実施要領案の変更について書面審議・承認
- 12月25日 原子力規制庁業務説明会開催
- 12月26日 大場恭子先生（日本原子力学会）が「原子力と倫理」にて講義

**令和8年（2026年）**

- 1月27日 運営委員会にて日高昭秀特任准教授の任期更新について書面審議・承認

認

- 1月28日 令和7年度第7回統括センター一定例会議
- 1月30日 吉澤厚文先生（長岡技術科学大学・東京電力ホールディングス）が「原子力と倫理」にて講義
- 1月31日 後藤淳准教授が長岡技術科学大学で「見える放射線実習」を実施
- 2月4日 長岡技術科学大学にて打合せ（後藤淳准教授）
- 3月11日 令和7年度第8回統括センター一定例会議
- 3月12日 令和7年度第2回原子力規制人材育成事業運営委員会
- 3月27日 令和7年度第1回外部評価委員会

## ■事業概要

本事業では、総合大学である新潟大学の多岐にわたる原子力規制関連分野（放射性同位元素部門、大学院自然科学研究科、災害・復興科学研究所、理学部・農学部・工学部、医学部災害医療教育センター、医歯学総合病院（基幹原子力災害拠点病院））が融合・連携することで、大学院教育（自然科学研究科特色ある教育プログラム「原子力規制学・災害リスクマネジメントプログラム」）、学部教育（副専攻プログラム「核エネルギー・災害科学」）、社会人教育（履修証明プログラム「原子力災害から命と健康を守る人材育成プログラム」）の三つの人材教育プログラムを推進し、将来的に原子力利用における世界最高水準の安全確保を牽引していく人材を育成する。

一つ目の柱である大学院教育では、原子力事業の規制に当たる人材養成のうち、特に地盤、地震、津波、火山及び耐震・耐津波設計の審査に必要な科学的・技術的基礎を有する高度原子力規制人材の養成を行う。本学大学院自然科学研究科に「原子力規制学・災害リスクマネジメントプログラム」を新設し、原子力科学と災害科学、災害医療の教育を担う教職員と放射性同位元素部門の教職員が協力して学生の教育研究を行い、原子力規制庁の検査官等任用資格における原子力安全審査に合致する高度原子力規制人材を育成する。

二つ目の柱として、学部教育において自身の主専攻に加えて第二の専攻として原子力について学ぶ副専攻プログラム「核エネルギー・災害科学」を設立し、理系学部だけでなく文系学部の学生も含めて原子力規制分野への進学と就職を目指すために必要な科学的・技術的知見を身に付けた人材を育成する。放射線をAR(拡張現実)又はVR(仮想現実)技術で可視化した「見える放射線実習」を開発し、この副専攻プログラム等に取り入れると共に、本学医学部保健学科専門科目の実習としても用いる。

三つ目の柱として、放射線規制、放射線モニタリングの知識と技術に加えて災害医療にも通じることで、原子力災害から命と健康を守ることができる人材の育成を目的とした社会人対象の履修証明プログラム「原子力災害から命と健康を守る人材育成プログラム」を設置し、行政、消防、救急救命士、警察、医師・看護師・保健師、また小・中・高校の保健師を対象としたリカレント教育を実施することにより原子力災害対策を考え、災害時の防護に即応できる人材の養成を行う。なお、履修証明プログラム修了生がより深く原子力規制について学ぶために、大学院自然科学研究科に社会人入学することも想定している。なお、原子力基礎災害医療研修は本事業とは別事業として実施する予定であるものの、基礎的かつ重要な事項が網羅されており本事業の受講生にも有用であるので、本事業の前に受講済みの者も含めて、終了に必要な時間数として認定する。

以上の概要を図1に示す。

原子力規制庁 原子力規制人材育成事業

## 原子力科学・災害科学の融合による高度原子力規制人材の育成



### 基幹原子力災害拠点病院（新潟大学医歯学総合病院）を有する新潟大学

総合大学としての強みを活かし、各学部・研究所などで実施・保有してきた人材・プログラム・施設と連携。原子力規制から災害対策まで見据えた、**多角的な教育プログラム**を実施する

自然災害、原子力、災害医療の知識を備えた  
**中核リーダー**

万が一の原子力災害時に命と健康を守る  
**地域リーダー**

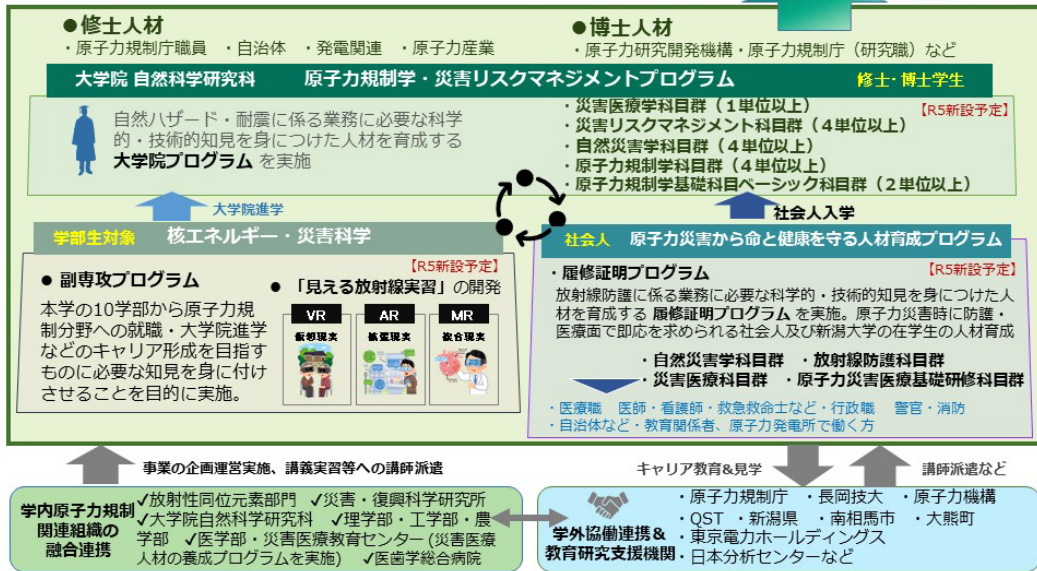


図1 本事業の概要

## ■組織の構築

### 統括センター等の事業運営体制の構築

事業を運営するため、令和4年10月7日に統括センターと原子力規制人材事業運営委員会を設置した。統括センターは事業の企画運営実施を担当する。そのため、センター長に伊藤紀美子教授、副センター長に狩野直樹准教授、研究統括機構・放射性同位元素部門の教職員として、部門長 佐藤英世教授（令和7年度より佐藤努教授）、副部門長 泉川卓司准教授（RI主任者）、後藤淳准教授（防護管理者）を配置した他、特任准教授 日高昭秀、特任専門職員 遠山伸一、事務補佐員 前田千香子、事務補佐員 平原歩美が統括センターの運営にあっている。（表2に統括センター参画者を記載）原子力規制人材事業運営委員会の委員は各実施項目の担当責任者および実施責任者等で構成し、事業実施に係る審議、決定を行う。また、年度末に内部評価を行う。（表1に運営委員会参画者を記載）

学内外機関との協力関係を含めた実施体制図を図2に示す。また、運営する各教育プログラムの主たる実施場所と担当責任者を図3に示す。

表1 運営委員

氏名	所属（役職）
末吉 邦*	理事(研究・大学院担当)・研究統括機構長
小野寺 理**	理事(研究担当)・研究統括機構長
伊藤 紀美子	自然科学系農学系列（農学部） 教授
竹林 浩秀***	研究統括機構共用設備基盤センター センター長 医歯学系医学系列（医学部） 教授
佐藤 努	研究統括機構共用設備基盤センター 放射性同位元素部門 部門長 自然科学系数理物質科学系列（農学部） 教授
泉川 卓司	研究統括機構共用設備基盤センター 准教授 共用設備基盤センター 放射性同位元素部門 副部門長
後藤 淳	研究統括機構共用設備基盤センター 准教授
大坪 隆	自然科学系数理物質科学系列（理学部） 准教授
後藤 真一	自然科学系数理物質科学系列（理学部） 准教授
狩野 直樹	自然科学系生産デザイン工学系列（工学部） 准教授
金澤 伸一	自然科学系生産デザイン工学系列（工学部） 准教授
卜部 厚志	災害・復興科学研究所 所長・教授
高橋 昌	大学院医歯学総合研究科（医学系） 特任教授 新潟医療人育成センター センター長 災害医療教育センター 副センター長
日高 昭秀	研究統括機構 特任准教授
遠山 伸一	研究統括機構 特任専門職員

\* 令和8年1月31日まで。 \*\* 令和8年2月1日から。 \*\*\* 令和7年8月31日まで。

表2 統括センター委員

氏名	所属（役職）
伊藤 紀美子	センター長 自然科学系農学系列（農学部） 教授
狩野 直樹	副センター長 自然科学系生産デザイン工学系列（工学部） 准教授
佐藤 努	自然科学系農学系列（農学部） 教授 共用設備基盤センター 放射性同位元素部門 部門長
泉川 卓司	研究統括機構共用設備基盤センター 准教授 共用設備基盤センター 放射性同位元素部門 副部門長
後藤 淳	研究統括機構共用設備基盤センター 准教授
大坪 隆	自然科学系数理物質科学系列（理学部） 准教授
後藤 真一	自然科学系数理物質科学系列（理学部） 准教授
吉川 夏樹	自然科学系農学系列（農学部） 教授
鈴木 哲也	自然科学系農学系列（農学部） 教授
金澤 伸一	自然科学系生産デザイン工学系列（工学部） 准教授
卜部 厚志	災害・復興科学研究所 所長・教授
高橋 昌	大学院医歯学総合研究科（医学系） 特任教授 新潟医療人材育成センター センター長 災害医療教育センター 副センター長
西山 慶	大学院医歯学総合研究科（医学系） 教授
日高 昭秀	研究統括機構 特任准教授
遠山 伸一	研究統括機構 特任専門職員
渡邊 丈	研究企画推進部 研究推進課 係長
前田 千香子	研究統括機構 事務補佐員
平原 歩美	研究統括機構 事務補佐員



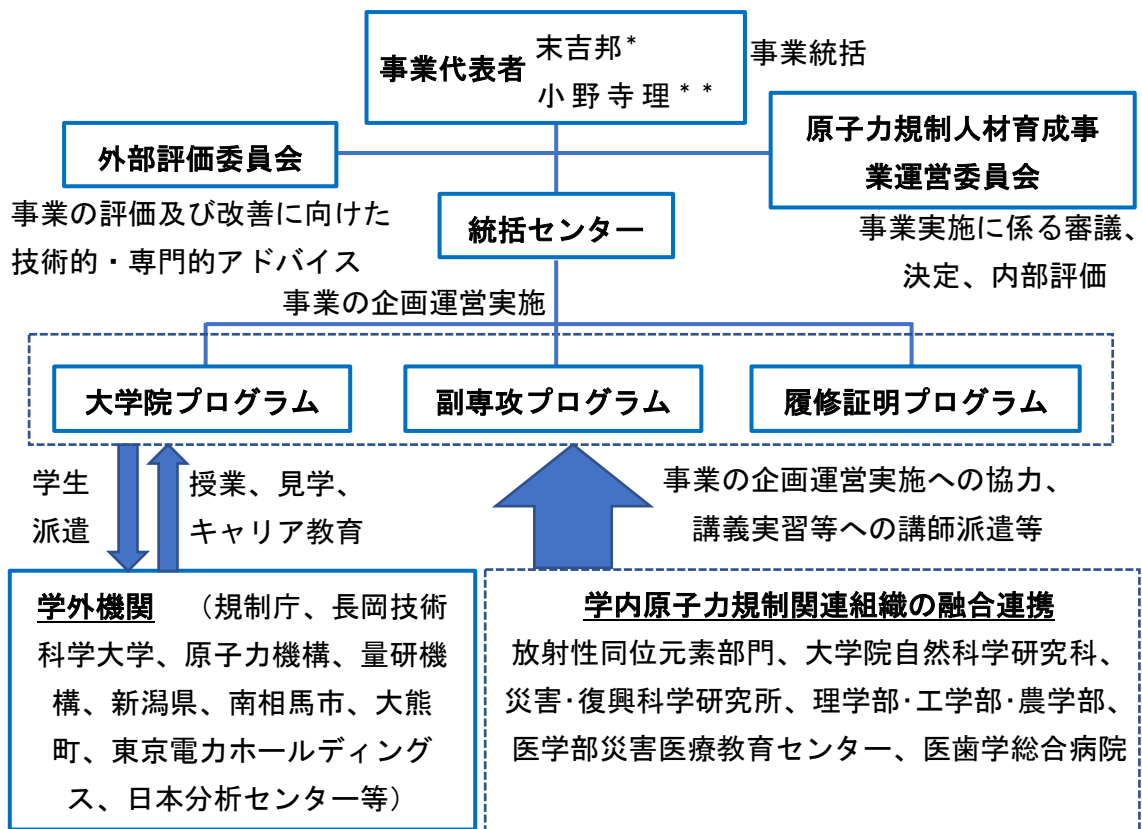


図 2 実施体制図

表 3 役割分担

事業項目	実施場所	担当責任者
統括センター等の事業運営体制の構築	統括センター、運営委員会及び研究統括機構	伊藤紀美子
大学院教育：特色ある教育プログラム「原子力規制学・災害リスクマネジメントプログラム」	大学院自然科学研究科及び研究統括機構	後藤真一
学部教育：副専攻プログラム「核エネルギー・災害科学プログラム」	教育・学生支援機構及び研究統括機構	大坪隆
社会人教育：履修証明プログラム「原子力災害から命と健康を守る人材育成プログラム」	災害医療教育センター、災害・復興科学研究所及び研究統括機構	高橋昌、 ト部厚志
見える放射線実習	研究統括機構	後藤淳
外部評価	外部評価委員会	末吉邦* 小野寺理**

図 2、表 3 とともに、 \* 令和 8 年 1 月 31 日まで。 \*\* 令和 8 年 2 月 1 日から。

## ■学内連携の概要と活動報告

- 新潟大学 理事（研究・大学院担当）・副学長 末吉邦\*  
理事（研究担当）・副学長 小野寺理\*\*  
事業責任者として、事業全体を統括する。

\* 令和8年1月31日まで。 \*\* 令和8年2月1日から。

- 新潟大学 研究統括機構 共用設備基盤センター 放射性同位元素部門

事業全体を総括すると共に、企画・運営等に関する実務を主に担当する。原子力・放射線関連の講義、実習の実施に必要な施設・機材等の提供、維持管理を行う。原子力関連の講義を担当すると共に、見える放射線実習の開発実施も行う。

- 新潟大学 大学院自然科学研究科  
大学院プログラムの実施、履修登録・評価・修了を担当すると共に、原子力関連及び自然災害関連の講義を担当する。

- 新潟大学 災害・復興科学研究所  
自然災害関連の講義を担当する共に、大学院プログラム及び履修証明プログラムの企画・運営に協力する。

- 新潟大学 理学部・農学部・工学部  
原子力及び自然災害関係の講義を担当すると共に、副専攻プログラムの企画・運営に協力する。

- 新潟大学 医学部災害医療教育センター  
災害医療関係の講義を担当すると共に、履修証明プログラムの企画・運営を医歯学総合病院及び放射性同位元素部門と共に担当する。

- 新潟大学 医歯学総合病院（基幹原子力災害拠点病院）  
原子力災害及び医療関係の講義を担当すると共に、履修証明プログラムの企画・運営を災害医療教育センター及び放射性同位元素部門と共に担当する。

以上の学内組織（放射性同位元素部門、大学院自然科学研究科、災害・復興科学研究所、理学部・農学部・工学部、災害医療教育センター、医歯学総合病院（基幹原子力災害拠点病院））が有機的に融合・連携することにより、類型②及び③に合致する高度人材の育成が可能となる。



## ■学外連携の概要と活動報告

原子力規制庁、日本原子力研究開発機構、量子科学技術研究開発機構、新潟県、南相馬市、大熊町、東京電力ホールディングス、長岡技術科学大学、日本分析センター、防災科学研究所、土木研究所等の学外組織にキャリア教育受講学生の受け入れ・見学・講師派遣を依頼することでさらに幅広い教育が可能になる。

### 活動報告

#### 【外部機関との連携】

##### ○原子力規制庁

12月25日、原子力規制庁放射線・廃棄物研究部門 大塚楓様、市末高彦様が新潟大学に来学し、学部生及び大学院生を対象とした業務説明会を開催した。

##### ○長岡技術科学大学

9月14日、長岡技術科学大学の学園祭（技大祭）にて後藤淳准教授が同大学生及び一般客を対象として見える放射線実習を実施した。見える放射線実習は、計19名（学生15名、教員2名、一般2名）の参加者があった。

12月3日、長岡技術科学大学及び東京電力ホールディングス 吉澤厚文客員教授、石川清澄客員准教授、古橋知己客員准教授に新潟大学にお越しいただき、後藤淳准教授との打ち合わせを行った。

1月31日、長岡技術科学大学の計算科学実習で見える放射線実習（学生1名、教員2名）を行った。

2月4日、後藤淳准教授が長岡技術科学大学 鈴木達也副学長及び長岡技術科学大学及び東京電力ホールディングス 吉澤厚文客員教授、石川清澄客員准教授、古橋知己客員准教授と長岡技術科学大学にて打合せを行った。

##### ○大阪大学

9月4日、大阪大学 岡田美智雄教授と新潟大学にて打ち合わせを行った。

## ■プログラムの概要と成果

### ①大学院教育

#### 大学院自然科学研究科の特色ある教育プログラム

##### 「原子力規制学・災害リスクマネジメントプログラム」

同研究科の5専攻（環境科学、数理物質科学、材料生産システム、電気情報工学、生命・食料科学）の博士前期課程及び後期課程に学ぶ学生を対象とし、原子力規制庁の業務に必要な科学的・技術的知見を有する専門職業人になり得る素養をもつ、高度原子力規制人材を養成する。修了・認定条件として、各専攻・コースの学位授与プログラムの修了要件を満たし、且つ「原子力規制学・災害リスクマネジメントプログラム」の履修基準を満たして修了し、一定の成績基準を満たすことを条件とする。修了生は、審査を経て大学院自然科学研究科長からプログラム修了認定証を授与する。

原子力規制学・災害リスクマネジメントプログラムにおいては、原子力規制学ベーシック科目群を導入科目とし、「原子力規制学総論」、「原子力規制キャリア教育」、「放射線計測実習」、「原子力と倫理」を新設する。このうち前者3科目については本事業で採用した教員に担当させ、特任専門職員に技術的支援を担当させる。「原子力と倫理」では倫理に関する歴史や理論を概説すると共に、オムニバス形式でケーススタディ等について教授し、科学技術と政策に係る高い倫理観を養う。また、原子力規制学科目群では原子力の利用に関わる基礎と規制に必須となる防護・測定・法規制を学ぶ。自然災害学科目群においては、地盤、地震、津波、火山、水害、またこれらを要因とする地盤崩落等の自然災害・二次災害とその発現メカニズムについて学習する。また、災害リスクマネジメント科目群においては、自然災害が及ぼす社会基盤への影響とこれを回避するための技術、非破壊検査を代表とする構造の劣化等を検出する技術及び耐震性・長寿命化等の材料開発について学ぶ。災害医療学科目群においては、災害時の医療及び災害発生時に必要となるロジスティクス（後方支援・業務調整）について学ぶ。（表4参照）

上記について、令和4年度にプログラム設置の承認、内規の整備、シラバスの確定が行われ、令和5年度から実施している。

なお、新潟大学は令和8年4月に現代社会文化研究科と自然科学研究科を統合し、人文社会科学専攻と自然科学専攻の2専攻からなる総合学術研究科を設置する予定である。新研究科においても、特色ある教育プログラムのひとつとして本プログラムを継続することが決定している。

## 活動報告

「原子力規制学・災害リスクマネジメントプログラム」の令和7年度登録者は数理物質科学専攻6名、環境科学専攻1名であった。令和6年度の登録者5名と合わせ、現在12名が履修している。

本プログラムではプログラムの開始にあたり、以下のような科目を新規開講した。各科目の令和7年度受講者数を挙げる。

原子力規制学総論	8名
原子力規制キャリア教育	8名
放射線計測実習	9名
原子力と倫理	6名
原子力エネルギー特論	4名

### 【ガイダンス】

大学院自然科学研究科における4月入学者向けに、4月4日、4月11日に第1回、第2回のガイダンスを行った。さらに10月入学者を含め2学期からの登録を募るために、10月1日に第3回のガイダンスを行った。令和7年度は博士前期課程7名の登録があった。

今年度はすべて4月に登録された。これは、多くの学生が参加しやすいように4月のガイダンスを昼休み（12時10分開始）に実施したことが要因と考えられる。また、数理物質科学専攻に加え他専攻（環境科学専攻）からの登録があった。引き続き本プログラムの周知を強化する。

### 【原子力規制キャリア教育】

7名の学生がそれぞれ以下の日程で各訪問先（一部の学生は2か所を訪問）に出向きキャリア教育を実施した。

8月18-22日	原子力規制庁（2名）
8月25-29日	原子力発電環境整備機構
9月24-10月8日	原子力研究開発機構
9月24-26日	東京電力ホールディングス 柏崎刈羽原子力発電所（2名）
3月2-6日	日本分析センター（2名）



原子力規制キャリア教育  
（柏崎刈羽原子力発電所）

## 【外部講師】

### 原子力規制学総論

- 10月23日 近藤寛子先生 (Matrix K)  
講義題目：検査制度と原子炉監視プロセス
- 11月6日 山田知穂先生 (原子力規制庁 原子力規制部 原子力規制企画課)  
講義題目：東京電力福島第一原子力発電所事故後、原子力安全規制はどう変わったか
- 11月13日 山本哲也先生 (原子力規制庁 長官官房 放射線防護企画課)  
講義題目：～福島第一原子力発電所の事故を踏まえて～
- 11月20日 瀬下拓也先生 (日本エヌ・ユー・エス(株) エネルギー技術ユニット)  
講義題目：IAEA 等国際的な安全基準、新型炉の審査

## 【福島見学】

放射線計測実習の一環として9月29日～30日に一泊二日で福島見学を実施し、大学院プログラム登録者5名、その他の学生1名、その他2名(新潟日報)、教職員4名の計12名が参加した。実施日程及び見学時の様子を以下に記す。

### <9月29日(月)>

- 8:25 新潟大学(五十嵐キャンパス)集合  
8:30 新潟大学出発  
12:30 GREVA おおくま着&昼食  
13:30～ 中間貯蔵施設見学  
16:00～ 東日本大震災・原子力災害伝承館見学  
18:15 ホテルに到着・宿泊

### <9月30日(火)>

- 8:30 ホテルを出発  
9:00～ 東京電力廃炉資料館見学  
9:30～ 福島第一原子力発電所見学  
12:15～ 昼食  
13:30～ 大熊町職員の方との対話 於：大熊町役場  
14:30 新潟への帰路に就く  
18:30 新潟大学(五十嵐キャンパス)に到着&解散



中間貯蔵施設見学



大熊町職員の方との対話

【浜通り環境放射線研修】

大阪大学が中心となって大熊町、双葉町、飯舘村で実施している浜通り環境放射線研修の事前講義（6月14日、21日、28日）、実地研修（9月8日～13日）、成果報告会（10月11日）及び発展放射線実習に大学院プログラム登録者2名が参加した。

実地研修には、大阪大学を始め教育機関からの学生125名が参加し、帰還困難区域で試料（木の葉、草など）を採取し、分析（IPやNaIで測定）し、議論を行うと共に、住民との意見交換や、大熊インキュベーションセンター及び中間貯蔵施設や福島第一原発などを見学した。実施日程及び研修の様子を以下に記す。

福島浜通り環境放射線実習 2025年【 9月 大熊組 】 予定表

9月大熊		2025年9月3日				
	9/8 (月)	9/9 (火)	9/10 (水)	9/11 (木)	9/12 (金)	9/13 (土)
8:00	集合@伊丹空港 8:20	バス移動 8:00~	バス移動 8:30~	バス移動 8:00~	バス移動 8:30~	チェックアウト 8:00
9:00	ANA733便 伊丹09:20→仙台10:35	A班 B班 C班 D班 E班 地機沢 奥 地機沢 手前	中間貯蔵施設視察 @中間貯蔵情報センター、柳町小学校、水産種苗研究所など 9:00~11:30	A班 B班 C班 D班 E班 地機沢 奥 地機沢 手前	測定の説明	成果発表会の準備 9:00~11:30
10:00	集合@仙台空港 10:45	主簿・植物採取 9:00~11:30	主簿・植物採取 9:00~11:30	主簿・植物採取 9:00~11:00	測定 9:00~12:00	阪大福島拠点 研修室③ オレンジ
11:00	バス	バス	バス	バス	バス	大野駅バス由発
12:00	昼食 南相馬SA	昼食 クマSUNテラス (仙台マートは不可) (食料調達 夜 翌朝)	昼食 さくらモール	昼食 クマSUNテラス (仙台マートは不可) (食料調達 夜 翌朝)	バス	バス (仙台空港行)
13:00	バス	バス	バス	バス	昼食 さくらモール (食料調達 夜 翌朝)	昼食 (道の駅はみえ)
14:00	集合写真 水戸アークス ①谷地 (飯坂) 14:00~15:00 ②白井 (三養軒前) 15:30~15:30 ③真鍋 (沼津駅) 15:30~16:30 自己紹介・対話 16:00~16:50	交通 13:30~16:30	1F簡易車庫 13:00~17:10 (40名)	試料整理 測定	バス	バス (仙台空港行)
15:00	阪大福島拠点 研修室①② ブルー	阪大福島拠点 研修室② ブルー		阪大福島拠点 研修室③ オレンジ	測定考察発表 14:00~17:00	阪大福島拠点 研修室② ブルー
16:00		集合写真撮影 16:30~17:30		町内視察 ・開始場所：3か所 ・集合場所：クマSUNテラス	片付け	解散 自由行動
17:00	夕食 朝倉温泉 クマSUNテラス	夕食	さくらモールで夕食調達 夕食	夕食 クマSUNテラス	バス	ANA738便 仙台17:35→伊丹18:55
18:00	バス	バス	振り返りの会 17:45~18:45	夕食	夕食	
19:00	チェックイン 蔵人館	バス	夕食 研修室④ブルー	振り返りの会 19:00~20:00	振り返りの会 19:00~20:00	
20:00			バス	蔵人館 会議室	蔵人館 会議室	



土壤試料採取



測定結果検討

### 【放射線主任者試験サポートプログラム】

令和6年度より放射線取扱主任者試験の旅費および受験料のサポート、試験対策のサポート（テキストと問題集の貸し出し等）を実施している。放射線取扱主任者は原子力規制庁の業務に必要な科学的・技術的知見を有する専門職業人になり得る素養において、放射性同位元素等の取扱いによる放射線障害の発生を防止することを監督する極めて重要な国家資格であり、今後もこの資格取得をプログラム参加者に対してサポートすることにより本プログラムの魅力向上を目指す。

令和7年度は4名の応募者があった。参加者からの申し出により、勉強会を数回開き、質問への回答などに対応した。今年度の合格者は第一種1名、第二種1名であった。

表4 令和7年度 原子力規制学・災害リスクマネジメントプログラム科目

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	必修選択
原子力規制学 ベーシック科 目群 4単位 <sup>#1</sup>	原子力規制学総論	1	日高昭秀、大坪隆	必修
	原子力規制キャリア教育	1	日高昭秀	必修
	放射線計測実習	1	後藤淳、日高昭秀 大坪隆	必修
	原子力と倫理 <sup>#3</sup>	1	宮坂道夫、日高昭秀 他	必修
原子力規制学 科目群	放射線物理学特論	2	大坪隆 他	選択必修
	放射線防護学特論	2	泉川卓司	選択必修
	放射線計測学特論	2	大坪隆 他	選択必修
前期課程 4単位以上	放射線関連法規	2	泉川卓司、大坪隆	選択必修
	原子核物理特論I	2	大坪隆	選択必修

後期課程	不安定核物理概論	2	羽場宏光、後藤真一	選択必修	
6単位以上 <sup>#1</sup>	原子力エネルギー特論	2	日高昭秀	選択必修	
自然災害学科 目群	火山土砂災害特論 <sup>#2</sup>	2	片岡香子	選択必修	
	地盤変動特論 <sup>#2</sup>	2	卜部厚志	選択必修	
	火山災害特論	2	片岡香子	選択必修	
	4単位以上 <sup>#1</sup>	水災害特論	2	安田浩保	選択必修
	突発災害特論	1	酒井哲弥 他	選択必修	
	第四紀・地盤災害特論	2	卜部厚志	選択必修	
	災害地球化学特論	2	渡部直喜	選択必修	
	斜面災害論 <sup>#3</sup>	2	西井稜子、権田豊	選択必修	
災害リスクマ ネジメント科 目群	建設構造材料論 I <sup>#2</sup>	2	阿部和久	選択必修	
	森林空間情報学 <sup>#2</sup>	2	村上拓彦	選択必修	
	森林保全工学特論	2	権田豊 他	選択必修	
	前期課程	基盤施設工学特論	2	鈴木哲也	選択必修
	4単位以上	建築振動学特論	2	中村孝也	選択必修
	後期加齢	建築構造設計特論	2	中村孝也	選択必修
	6単位以上 <sup>#1</sup>	農業水利調整論	2	吉川夏樹	選択必修
	海岸環境工学特論	2	中村亮太	選択必修	
	コンクリート工学特論	2	佐伯竜彦	選択必修	
	計算力学特論	2	阿部和久	選択必修	
	環境地盤学特論	2	金澤伸一	選択必修	
	森林空間計測学特論	2	村上拓彦	選択必修	
	リスクマネジメント特論	2	東瀬朗	選択必修	
	環境砂防学 <sup>#3</sup>	2	権田豊	選択必修	
	水環境工学 <sup>#3</sup>	2	吉川夏樹	選択必修	
	コンクリート構造工学 <sup>#3</sup>	2	佐伯竜彦	選択必修	
	動力学 <sup>#3</sup>	2	阿部和久	選択必修	
災害医療学科 目群	災害医療概論 <sup>#3</sup>	1	高橋昌	選択必修	
	1単位以上	原子力災害医療体制 <sup>#3</sup>	1	西山慶	選択必修
	災害医療ロジスティクス <sup>#3</sup>	1	高橋昌	選択必修	

#1：5科目群の合計で博士前期課程においては20単位以上、博士後期課程においては24単位以上履修すること。

#2：博士後期課程の学生のみ。博士前期課程の学生は原則として履修できない。

#3：学部向け講義のため、大学院修了のための単位には含めることができない。自身の主専攻以外の基礎知識習得のために受講することを想定している。

## ②学部教育

### マイナー・プログラム パッケージ型マイナー「核エネルギー・災害科学」

副専攻プログラムパッケージ型マイナー「核エネルギー・災害科学プログラム」を令和5年度から開設し、原子力規制分野への大学院進学・就職等のキャリア形成を目指す者として備えるべき原子力に関する知見を有する人材を育成する。

副専攻プログラム改め、マイナー・プログラムに登録し、指定科目で所定の単位（12単位以上）を取得した学生には修了証が発行され、学部の専門分野とは異なる分野・専門領域である「核エネルギー・災害科学」を学び終えたことが証明される。

放射性同位元素部門、理学部、医学部、工学部を中心とした学部プログラム開設準備委員会を設置し、副専攻形態の一つである、パッケージ型マイナー「核エネルギー・災害科学」を教育・学生支援機構へ開設申請し、承認され令和5年度より開始した。このために既存の科目に加えて新たに11科目を新設した。

学部学生募集のための広報については、新入生全体に配布されるパンフレットにマイナー・プログラム「核エネルギー・災害科学」の詳細を掲載し、また新潟大学全学分野横断創生プログラム（NICE）ホームページにおいても掲載した。4月7、8日に新入生向けに開催されたNICEプログラム履修ガイダンスでブースを置き、説明と見える放射線実習用VRゴーグルシステムの実演を行った。

開設プログラムの詳細な科目を表5に記す。

## 活動報告

本プログラムではプログラムの開始にあたり、以下の11科目を新規開講した。令和6年度第1タームには「放射性廃棄物処理法」を開講し、新規開講の全科目を開始した。各科目の令和7年度受講者数を以下に挙げる。

原子力の未来と災害を考える	21名
原子力入門	143名
放射線入門と実習	15名
原子力・放射線関連法規入門	62名
放射性廃棄物処理法	178名
原子力・放射線物理学入門	54名
原子力・放射線防護学入門	77名
原子力と倫理	171名

原子力災害医療体制	24名
災害医療概論	268名
災害医療ロジスティクス	270名

育成人数目標は5名としたが、令和5年度は15名、令和6年度は44名が登録し履修している。令和7年度は71名（11月25日時点）の登録者があった。

また、令和7年度9月期の修了者は法学部1名、令和7年度3月期の修了認定申請では、理学部、工学部より各2名、1名が認定された。

また、令和7年度は計4名（9月期に法学部1名、3月期に理学部2名と工学部1名）の修了が認定された。

また、プログラム登録者向けに、授業及びプログラムについてのアンケートを2学期終了時に行った。

### 【外部講師】

#### 放射性廃棄物処理法

- 5月7日 加藤貢先生（日本原子力研究開発機構）  
講義題目：JAEAにおける放射性廃棄物管理・処理
- 5月20日 石川洋一先生（環境省）  
講義題目：福島環境再生事業
- 5月27日 藤山哲雄先生（原子力発電環境整備機構）  
講義題目：放射性廃棄物の処分

#### 原子力入門

- 7月17日 竹澤宏樹先生（長岡技術科学大学）  
講義題目：原子炉物理

#### 原子力と倫理

- 12月26日 大場恭子先生（日本原子力学会）  
講義題目：技術者倫理と安全文化
- 1月30日 吉澤厚文先生（長岡技術科学大学・東京電力ホールディングス）  
講義題目：企業不祥事と技術者倫理

#### 放射線入門と実習

- 8月5日 石井慶造先生（東北放射線科学センター）  
実習：測定機器を用いた放射線計測

#### 原子力の未来と災害を考える

- 7月2日 志賀博英先生（大熊町役場）  
講義題目：大熊町の復興への取組について

7月9日 坂下拓也先生（南相馬市役所）

講義題目：東日本大震災における南相馬市の対応

9月18日 吉澤厚文先生（長岡技術科学大学・東京電力ホールディングス）

講義題目：福島第一原子力発電所事故は何を遺したのか



放射性廃棄物処理法  
（講義の様子）



放射線入門と実習  
（放射線測定）

### 【東京電力柏崎刈羽原子力発電所見学】

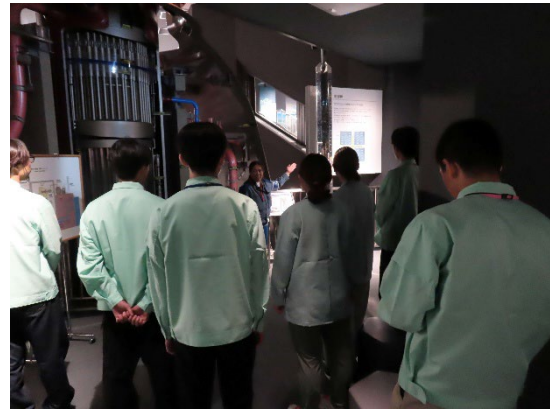
「原子力の未来と災害を考える」の一環として9月18日に東京電力柏崎刈羽原子力発電所見学を実施し、同科目履修者のうち19名、教職員2名の21名が参加した。実施日程を以下に記す。

<9月18日（水）>

- 8:30 新潟大学五十嵐キャンパス西門集合、柏崎刈羽原発に向けて出発
- 10:00 ビジターズハウスに到着
- 10:15～ 吉澤先生講義「福島第一原子力発電所事故は何を遺したのか」
- 11:45～ 昼休み
- 13:00～ 柏崎刈羽原発見学と質疑応答、東京電力ホールディングスの紹介
- 17:15 帰路に就く
- 19:00 新潟大学五十嵐キャンパス西門到着、解散



講義



見学

「福島第一原子力発電所事故は何を遺したのか」 (展示コーナーの原子炉模型)

表5 令和7年度マイナー・プログラム「核エネルギー・災害科学」の科目

科目区分	授業科目	単位数	担当教員	必修選択
原子力規制 学基礎科目 群  5単位以上 <sup>#1</sup>	原子力の未来と災害を考える	1	後藤淳 他	必修
	原子力入門	1	日高昭秀	必修
	放射線入門と実習	1	日高昭秀、後藤淳	必修
	原子力・放射線関連法規入門	1	泉川卓司	必修
	放射性廃棄物処理法	1	日高昭秀 他	選択必修
	原子力・放射線物理学入門	1	大坪隆	選択必修
	原子力・放射線防護学入門	1	泉川卓司	選択必修
	原子力と倫理	1	宮坂道夫、日高昭秀 他	選択必修
	物理学基礎AI	2	大野義章 他	選択必修
	物理学基礎BI	2	摂待力生 他	選択必修
化学基礎A	2	古川貢 他	選択必修	
自然災害学 科目群  3単位以上 <sup>#1</sup>	地学基礎C	2	卜部厚志	選択必修
	環境地質学	2	卜部厚志	選択必修
	環境地質学実習	1	卜部厚志	選択必修
災害リスク マネジメン ト科目群  3単位以上 <sup>#1</sup>	斜面災害論	2	西井稜子、権田豊	選択必修
	環境砂防学	2	権田豊	選択必修
	コンクリート構造工学	2	佐伯竜彦	選択必修
	動力学	2	阿部和久	選択必修
災害医療学 科目群  1単位以上 <sup>#1</sup>	地盤工学III	2	保坂吉則 他	選択必修
	災害医療概論	1	高橋昌	選択必修
	原子力災害医療体制	1	西山慶	選択必修
	災害医療ロジスティクス	1	高橋昌	選択必修

#1：4科目群の合計で12単位以上履修すること。

### ③社会人教育

#### 履修証明プログラム「原子力災害から命と健康を守る人材育成プログラム」

放射線規制、放射線モニタリングの知識と技術に加えて災害医療に通じた社会人育成のための履修証明プログラム「原子力災害から命と健康を守る人材育成プログラム」を令和5年度から開設し、行政、消防、救急救命士、警察、医師・看護師・保健師、また小・中・高校の保健師等を対象としたリカレント教育を実施することにより、原子力災害対策を考え、災害時の防護に即応できる人材の養成を行っている。以下に開設プログラムを通じた人材育成方法を記す。

履修証明プログラム「原子力災害から命と健康を守る人材育成プログラム」の開講に先立って、行政、消防、救急救命士、警察、医師・看護師・保健師、また小・中・高校の保健師を対象とした受講生募集を行う。募集に先立って、ポスター、リーフレット等により関係各所への周知を図った。

本プログラムの履修修了者には、本学から学校教育法に基づくプログラムであること及びその名称等を示した履修証明書を交付する。

「原子力災害から命と健康を守る人材育成プログラム」は4つの科目群から構成され、放射線防護科目群では、原子力災害発生時の対応及び事前対策に必要となる原子力利用に関わる基礎と規制及び放射線防護・モニタリングの方法等を座学及び実習等で学習させる。災害医療科目群では、原子力災害発生時に自身のみならず周囲も含めた命と健康を守るために必要となる災害医療及びロジスティクス（後方支援・業務調整）に関する事項を座学等で学習させる。自然災害学科目群では、原子力災害へとつながる可能性がある自然災害に関する事項を座学等で学習させる。原子力災害医療基礎研修は、本事業とは別事業として実施するが、基礎的かつ重要な事項が網羅されており本事業の受講生にも有用であるため、本履修証明プログラムの修了に必要な時間数として認定する。プログラム履修前に当該基礎研修を受講した者についても、プログラムの履修単位として認定する。（表6参照）

対象とする社会人は、定められた時間での受講が困難であることが想定されるため、通常の授業形式で実施する科目だけでなく、可能なものについてはe-learning教材を活用して学習させる。

以上のプログラムについて、初年度は学内手続き、募集要項の整備、また毎年広報のためのリーフレットの作成、ホームページの更新を実施した。

## 活動報告

7月1日より令和7年度履修生の募集を開始し、7名の応募があり選考の上全員が承認された。10月15日に入学式を開催し受講を開始した。令和5年度の11名及び6年度の5名を加え、現在までの履修登録者は総計23名である。そのうち今年度初めて5名の修了生があり、9月24日に下記のように修了式を実施した。(3月期は修了生の都合がつかず開催は中止。)

### 【入学式及び座談会】

10月15日に履修証明プログラムの令和7年度入学式と座談会をオンラインで開催した。入学式と座談会は全履修生が閲覧できるようe-learningシステム内に動画を掲載している。式次第を以下に示す。

### 新潟大学履修証明プログラム「原子力災害から命と健康を守る人材育成プログラム」 令和7年度入学式 次第

開催日： 10月15日(水) 16:00~17:00

ZOOMによるリモート会議

- ◇ 開式の辞
- ◇ 挨拶(末吉邦理事)
- ◇ 履修ガイダンス
  - ・プログラムの概要紹介
  - 履修証明プログラムについて、授業科目の概要
  - ・出席教員自己紹介
  - (1分/人:自己紹介と履修のポイントなど。ビデオメッセージ含む)
  - ・履修の留意点
  - 履修期間・修了要件、履修に関する注意事項、及び事務連絡(履修の手引き)
  - 履修電子システムの使用法
  - ・履修のモデルケース
- ◇ 座談会(司会:伊藤紀美子統括センター長)
  - ・履修生自己紹介(出席履修生 1分/人:仕事、興味など)
  - ・履修生との質疑応答、情報交換、意見交換など
  - ・プレアンケート説明
- ◇ 閉式の辞

### 【修了式及び座談会】

9月24日に令和7年度9月期の修了式を対面で開催した。なお、令和7年度3月期の修了式は修了者の都合により開催しなかった。令和7年度の修了者数は、9月期2名、3月期3名の計5名である。9月期修了式の式次第を以下に示す。

## 新潟大学履修証明プログラム「原子力災害から命と健康を守る人材育成プログラム」

### 令和7年度9月期修了式 次第

開催日： 9月24日（水） 15:00～15:30

- 開式の辞
- 履修証明書授与
- 式辞(末吉邦理事講話)
- 記念撮影
- 閉式の辞
- 座談会(司会:伊藤紀美子統括センター長)
  - ・修了生挨拶
  - ・教官と修了生の意見交換、情報交換など
  - ・アンケート説明
- お開き

### 【対面講義（実習）の実施】

7月12日（土）に「放射線計測実習」と「放射線モニタリング実習」を対面で以下の通り実施した。以下に場所及び日程を示す。

場所：新潟大学 旭町キャンパス 旭町RI施設

日程：

- |             |                    |
|-------------|--------------------|
| 8:30～9:30   | ガイダンス・放射線モニタリング実習1 |
| 9:40～10:40  | 放射線モニタリング実習2       |
| 10:50～11:50 | 放射線モニタリング実習3       |
|             | 昼休憩                |
| 13:00～14:00 | 放射線計測実習1           |
| 14:10～15:10 | 放射線計測実習2           |
| 15:20～16:20 | 放射線計測実習3           |
| 16:30～17:30 | 放射線計測実習4           |
| 17:30～17:40 | フォローアップ、解散         |

履修生の実習への参加は新潟県、埼玉県、千葉県から3名で、職場の研修では経験できない測定器の取り扱いや放射線災害への取り組み方など実際に学ぶことができたこと、放射線可視化観察では、放射線を可視化して実際の動きを理解できたことなどの感想があった。



放射線計測実習



放射線モニタリング実習  
(見える放射線実習)

表6 令和7年度 原子力災害から命と健康を守る人材育成プログラム科目

科目区分	授業科目	担当教員	必修選択
放射線防護科目群	原子力・放射線防護学特論	後藤真一、後藤淳	必修
	原子力・放射線物理学特論	後藤真一、大坪隆	選択必修
	放射線計測実習	後藤淳、後藤真一	選択必修
15時間以上 <sup>#1</sup>	原子力・放射線関連法規	日高昭秀、泉川卓司	必修
	原子力災害関連法令	日高昭秀	必修
	放射線計測学特論	狩野直樹、後藤真一	選択必修
	放射線モニタリング実習	後藤淳、狩野直樹	選択必修
	原子力・放射線の科学技術史	後藤淳	選択必修
	環境放射線・放射能	後藤淳	選択必修
	災害医療科目群	災害医療概論	高橋昌、中込悠
災害医療ロジスティクス概論		必修	
災害医療の人的資源・関係機関等に関するロジスティクス		必修	
災害医療の物的資源・輸送に関するロジスティクス		必修	
災害医療の情報管理・通信に関するロジスティクス		必修	
災害医療の活動環境・後方支援に関するロジスティクス		選択必修	
災害医療のマネジメント、コーディネーションに関するロジスティクス		選択必修	

	災害医療における安全管理・マナー等について		選択必修
	災害医療での受援に関するロジスティクス		選択必修
	災害時の医療に関係する主な機関・組織・職種		選択必修
	災害時の医療体制		選択必修
	災害時の調整		選択必修
	特殊災害時の医療		選択必修
	被ばく医療		選択必修
自然災害 学科目群 5時間以上 #1	自然災害総論	卜部厚志	必修
	火山災害特論#2	片岡香子	選択必修
	第四紀・地盤災害特論#2	卜部厚志	選択必修
	砂防工学特論	権田豊	選択必修
原子力災害医療基礎 研修科目群 制限無し#1	原子力防災体制	西山慶、本多忠幸等 原子力災害医療基礎 研修講師資格を有する者	選択
	放射線の基礎		選択
	放射線の影響		選択
	放射線防護		選択
	汚染検査・除染		選択
	安定ヨウ素剤		選択
	避難退域時検査		選択
避難と屋内退避の支援	選択		

#1：履修証明プログラム修了のためには4科目群の合計で60時間以上の履修が必要

#2：大学院向けに開設された講義を聴講

#### ④見える放射線実習

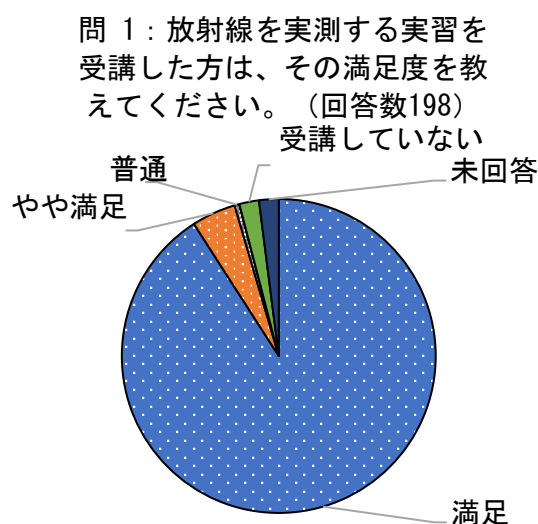
「見える放射線実習」については、本事業以前から実習で使用してきた放射線シミュレーションに基づく 3D モデル作成技術を発展させ、現実世界での放射線検出や相互作用や遮蔽・距離による減衰を仮想又は拡張現実の中で目の当たりにすることで、放射線の性質を容易に理解できる新たな実習を開発した。

令和 4 年度は同実習を開発し、同時に 7 名が体験できる体制を整えた。令和 5 年度は、より高性能な VR ゴーグルと GPU 搭載ノートパソコンの整備及びそれを用いた実習の高度化についての検討を進めた。また、電子冷却式の霧箱を購入し、霧箱の  $\alpha$  線や  $\beta$  線の飛跡も観察させ、見える放射線実習と比較させることで、より一層の放射線に対する理解の促進を目指した。

同実習の受講者数は、令和 4 年度は計 46 名（目標 40 名）、令和 5 年度は 141 名（目標 120 名）、令和 6 年度は 141 名（目標 188 名）であった。令和 7 年度（目標 120 名）は以下に箇条書きした科目での 2～5 コマの実習、履修証明プログラムの実習、高校生を対象としたオープンキャンパス及び長岡技術科学大学との連携（技大祭及び計算科学実習）などにて計 198 名が受講した。

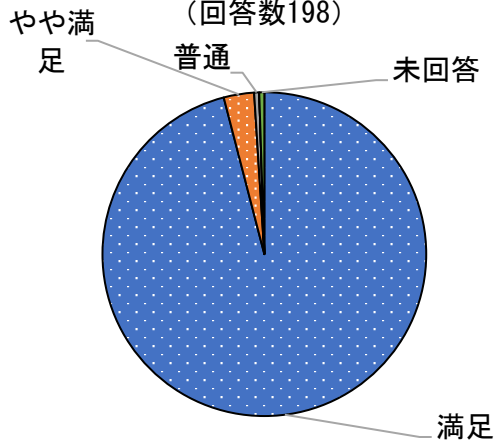
- ・ G コード科目「放射線入門と実習」（4 コマ）：9 名
- ・ 保健学科放射線技術科学専攻 2 年生「放射化学実験」（2 コマ）：37 名
- ・ 保健学科看護学専攻 3 年生「成人・老年看護技術論」（2 コマ）：79 名
- ・ 大学院自然科学研究科「放射線計測実習」（5 コマ）：6 名
- ・ 大学院自然科学研究科（希望者が体験）：3 名
- ・ 履修証明プログラム：3 名
- ・ 新潟大学オープンキャンパス：37 名
- ・ 長岡技術科学大学 技大祭：19 名
- ・ 長岡技術科学大 計算科学実習：3 名
- ・ 柏崎原子力広報センター：2 名

受講生に対して実施したアンケートの結果を以下に記す。設問 2 と 8 の回答よりほぼすべての受講生が本実習に満足し、有意義と感じたことがわかる。また、設問 3 と 4 の回答より本実習は放射線の理解度向上に有効であることがわかる。設問 11 と 12 の原子力規制関連分野への就職に関する設問の回答については若干の変動はあるものの昨年までと大きな変化はなかった。



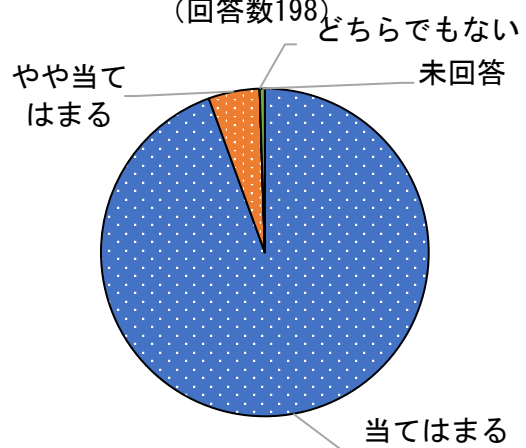
問2：見える放射線実習の満足度を教えてください。

(回答数198)



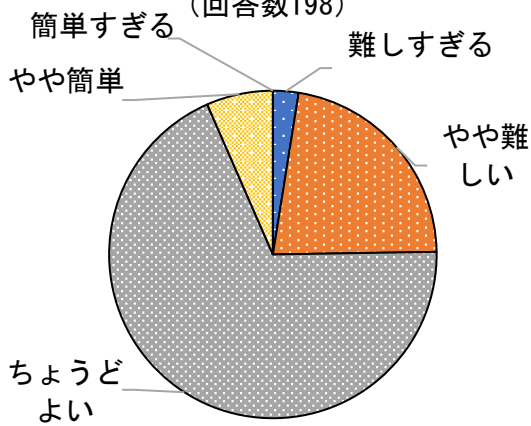
問3：見える放射線実習は、放射線の理解に役に立つと思う。

(回答数198)



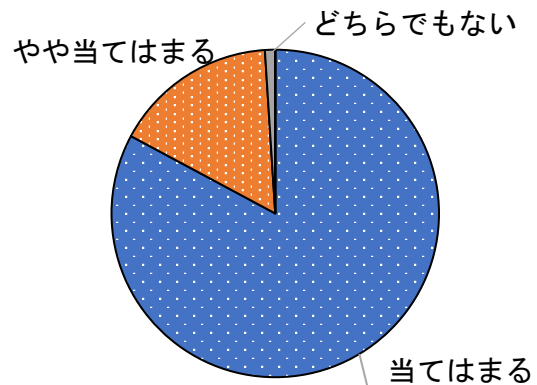
問5：見える放射線実習の難易度を教えてください。

(回答数198)



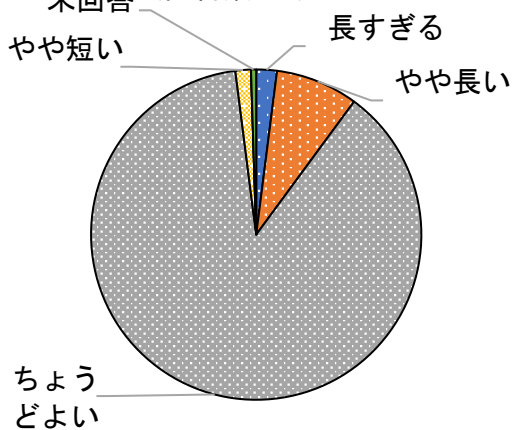
問4：見える放射線実習によって、放射線の理解度は向上した。

(回答数198)



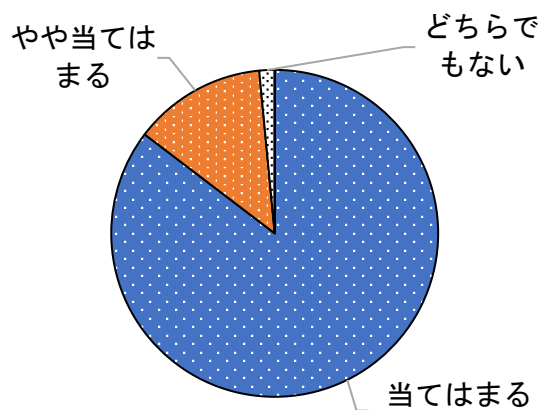
問6：見える放射線実習の実習時間について教えてください。

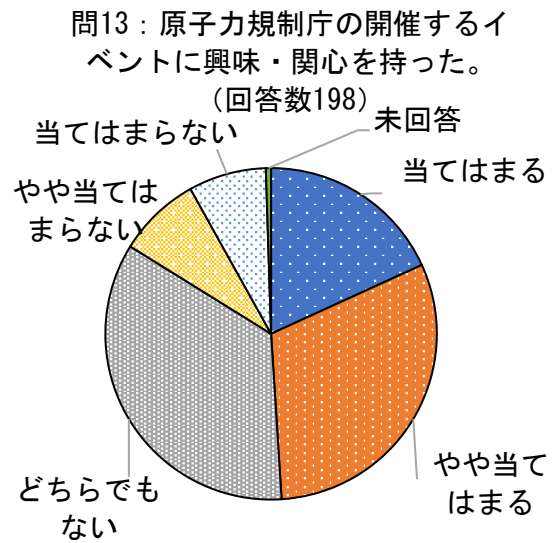
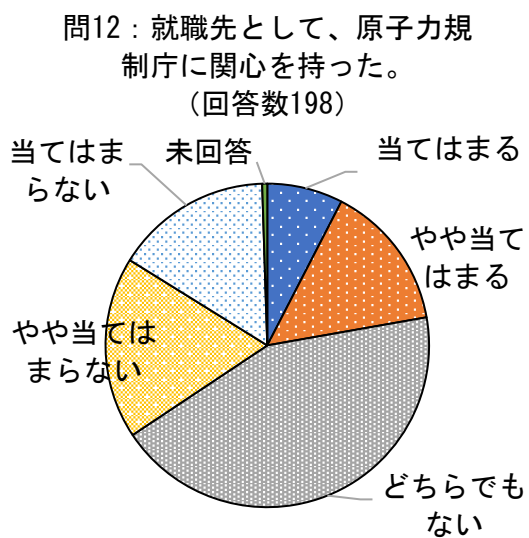
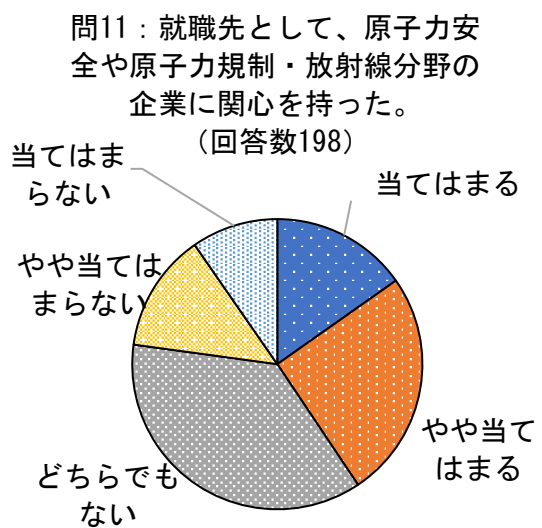
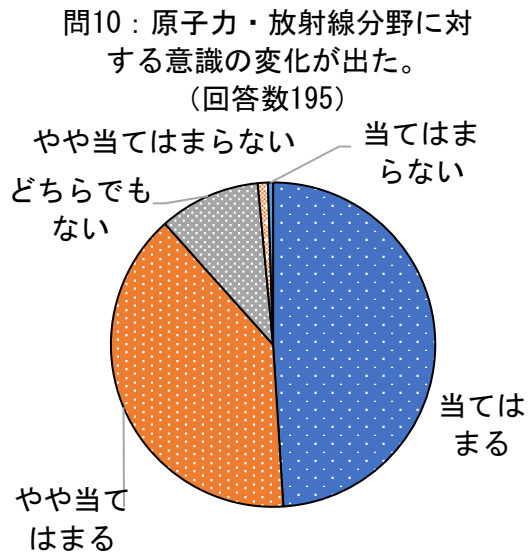
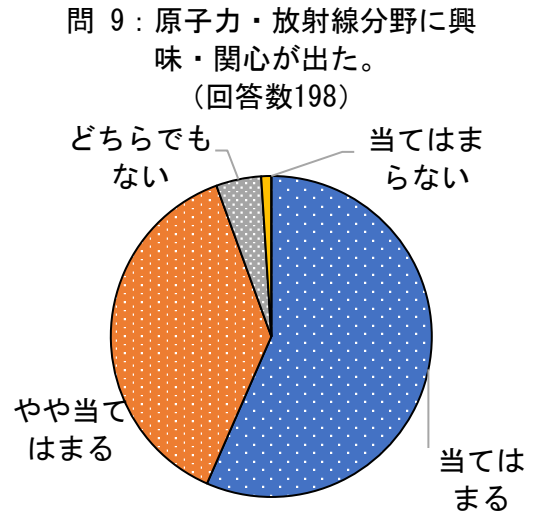
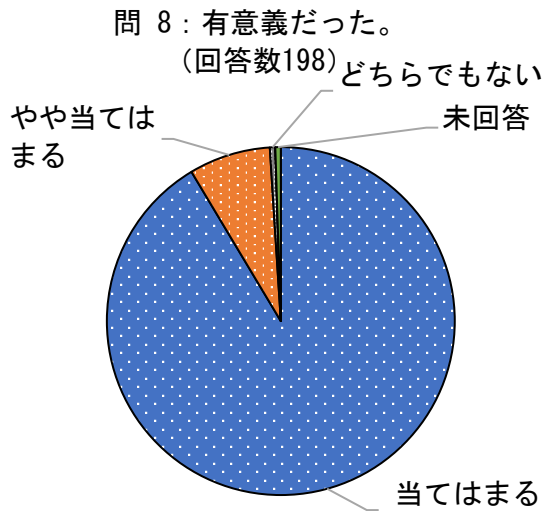
(回答数198)



問7：VR（仮想現実）を使った実習は、役に立つと思う。

(回答数198)





## ■その他の活動報告

### ①オープンキャンパス

8月7、8日、新潟大学のオープンキャンパスにて「原子力規制人材育成事業の紹介とVR(仮想現実)放射線観察体験」を行った。

場所： ライブラリホール、五十嵐キャンパス総合教育研究棟 351 室

来訪者：64名（高校生55名、大学生1名、保護者7名、大学職員1名）

開催内容：

ライブラリホール：講演会

- ・原子力規制人材育成事業に関する説明（パワーポイントを用いた講演）

総合教育研究棟：体験会

- ・霧箱を用いた自然放射線由来の飛跡の観察
- ・VRによる放射線を可視化する仮想空間体験（見える放射線実習）

来訪者からは放射線や発電所の説明に質疑応答があり、また可視化した放射線の挙動に興味を示し、放射線や原子力発電の理解を深めたようである。



オープンキャンパス  
（事業及び放射線等に関する説明）



オープンキャンパス  
（見える放射線実習）

## ②外部評価委員会

令和4年度に外部評価委員を選定し、外部評価委員会を設置した。毎年3月に外部評価委員会を開催し、事業の進捗状況、実施内容について評価いただく予定である。これにより改善課題等を明確にし、次年度以降に改善を試みる。外部評価委員としては原子力分野のみならず、医学、災害、社会学等広い関連分野の有識者5名程度に依頼した。令和7年度は、令和8年3月27日に外部評価委員会を実施した。

### 外部評価委員

氏名	所属（役職）
鈴木 達也	長岡技術科学大学大学院工学研究科・教授
内藤 眞	厚生連新潟医療センター病理部・部長（新潟大学名誉教授）
中村 広栄※	新潟県防災局・局長
木幡 孝行	福島県南相馬市役所復興企画部危機管理課・課長
松井 克浩	新潟大学人文学部・教授

※ 令和7年度、原直人氏より交代

【参考】令和6年度新潟大学原子力規制人材育成事業外部評価（総合評価）

令和7年3月12日開催

総合評価	A
------	---

【評価区分】

区分	評価
S	計画を越えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。
A	計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。
B	一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組があり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。
C	取組に遅れが見られるなど、総じて計画を下回る取組であり、事業の目的を達成するためには、当初計画に基づく目標の早急な達成や事業規模の縮小等に向け、事業計画の抜本的な見直しが必要である。

【コメント・ご意見 とりまとめ】

① 事業全体（統括センターなどの事業運営体制の構築、予算の計画的執行等）

評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪大学や長岡技大との連携など、他機関との連携も活発に行われている。</li> <li>・ワークショップやオープンキャンパスなど、学外への人材育成も広がっていて大変良い。</li> <li>・事業実施の拠点となる統括センターの備品整備を継続し、また、五十嵐RI 施設に実習のために液体シンチレーションシステム、放射線検出モジュールおよび非密封RI 等を購入するなど品質の高い実習ができるよう整備したことは高く評価される。</li> <li>・外部機関の大阪大学、長岡技術科学大学との連携も発展性があり、評価される。</li> <li>・最近の原子力規制を取り巻く諸問題についてワークショップを開催し、プログラム履修生と講演者を交えたパネルディスカッションを行って情報提供や意見交換を行ったことは有益であった。</li> </ul>
--------	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新潟大学オープンキャンパスで行った原子力規制人材育成事業の紹介とVR(仮想現実)放射線観察体験は、放射線や原子力発電を身近に感じてもらうために有効な催しである。</li> <li>・外部機関との調整段階ではありますが、試料を採取し分析するなどのより実践的な取組が行われることを期待します。</li> <li>・大阪大学、長岡技術科学大学などの外部機関との連携が進んだ。</li> <li>・充実した事業運営体制を整備して事業に取り組んでいる。</li> <li>・オープンキャンパスなどの様々な場や媒体により、人材育成事業の周知を図る取組が見られる。</li> <li>・大熊町、日本分析センター、QST等と連携協定を締結し、原子力に係る幅広い教育を可能としている。</li> </ul>
<p>より一層の改善・進展が望まれる点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子力規制人材育成事業のホームページで、活動報告が「準備中」となっており、学外からは見られない。授業、実習、ワークショップ、福島見学などの状況を紹介したらどうか。</li> <li>・大学院生に適切に履修を促すための広報に、なおいっそう力を入れていただきたい。</li> <li>・昨年度提出したコメントへの対応の説明が一切なく、事業説明書においても確認できなかった。また、外部評価委員会前の音声確認等もないため、より丁寧な運営が望まれる。</li> </ul>
<p>その他コメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的にプログラムに取り組んでおり、大変良い。</li> <li>・柏崎刈羽原子力発電所が立地する新潟県において、多様なプログラムにより原子力規制人材の養成を行うことの意義は大きい。</li> <li>・新潟県には環境放射線モニタリング実施している放射線監視センターやオフサイトセンターがあり、毎年、原子力防災訓練等を実施している。また、原子力安全対策課において、理工系の学生を対象としたインターンシップの受け入れも実施しており、実際の活動を見る場として活用していただければと考えている。</li> </ul>

## ② 大学院教育プログラム

<p>評価できる点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本プログラムによる講義に放射線測定等を専門としていない学生が参加したとのことで、大変好感が持てる。</li> <li>・放射線取扱主任者のサポート業務により、合格者を出したとのことで評価できる。</li> <li>・昨年度開講しなかった科目を開講し、本プログラムで予定していた科目がすべて実施されたことは評価される。</li> <li>・受講生に外部連携機関を通じた見学やキャリア教育は本人の進路を考える重要な機会であり、将来につながる。</li> <li>・プログラム参加者向けの放射線取扱主任者受験サポートを開始し、2名の合格者を出したことは評価される。</li> <li>・難易度の高い国家資格である放射線取扱主任者の合格者が出ている点について評価します。</li> <li>・計画通りにプログラムが開設された。</li> <li>・外部連携機関を通じた見学など充実した内容が実施された。</li> </ul>
<p>より一層の改善・進展が望まれる点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より広い専攻の学生がプログラムに参加できると良い。もちろん、大学院の講義なので専門性が高くなるため難しいことは理解しております。</li> <li>・前期課程の登録者数は5名で目標（7名）に満たなかった。また、後期課程の登録者数は0名で目標（1名）に満たなかったが、ガイダンス回数を増やすなどの努力を継続してほしい。大学院生に時間的余裕がないため受講生が少ないのであれば、カリキュラム自体について再検討が必要であろう。</li> <li>・放射線取扱主任者受験サポートは極めて有効と判断されるので、継続・強化してほしい。</li> <li>・前期課程・後期課程とも登録者数を増加させることが必要である。</li> <li>・登録者数が目標を満たしていない。一方、学部教育プログラムの登録者数は目標を大きく上回っており、同プログラムを通して学部生への周知に努めてはどうか。</li> </ul>
<p>その他コメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期課程、後期課程とも、目標登録者数が上回ることを期待します。</li> <li>・大学院生に適切に履修を促すための広報に、なおいっそう力を入れていただきたい。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム内容が適切であることを確認し改善していくとともに、受講目的を把握し登録者数を増やしていくためにも、受講生に対するアンケートの実施等について検討していただきたい。(昨年度も提案)</li> </ul>
--	--

### ③ 学部教育プログラム

評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義が充実し、多くの受講者もおり、大変評価できる。</li> <li>・法学部や医学部の学生がパッケージ型マイナーの認定を受けているのも好感が持てる。</li> <li>・パッケージ型マイナー登録者数（44名）が目標（5名）を大きく上回った。また、新規開講科目の全てを開講でき、ほぼすべての新設科目で定員を上回る履修希望学生に原子力について学ぶ機会を提供できたことは高く評価される。</li> <li>・幅広い原子力関連の科目を開講し、多くの学生が受講している点について評価します。</li> <li>・パッケージ型マイナー認定申請があり、学生の学習意欲が高い点について評価します。</li> <li>・パッケージ型マイナー登録者数が目標を大きく上回っている。</li> <li>・計画通りにプログラムが開設された。</li> <li>・登録者数が目標を大きく上回っており、原子力について、多くの学生に学ぶ機会を提供している。</li> </ul>
より一層の改善・進展が望まれる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院教育プログラムへの登録促進のため、同プログラムとの連携等の取組を行ってはどうか。</li> </ul>
その他コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイナー登録者以外の多くの学生が関連科目を履修していることは、意義がある。</li> <li>・プログラム内容が適切であることを確認し改善していくとともに、受講目的を把握し登録者数を増やしていくためにも、受講生に対するアンケートの実施について検討していただきたい。(昨年度も提案)</li> </ul>

### ④ 社会人教育プログラム

評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人教育も粛々と行っている。</li> <li>・令和6年度登録者数が5名で、目標（5名）を達成したことと、入学式、講義などオンラインによる指導、交流のみな</li> </ul>
--------	--

	<p>らず、ワークショップ、実習に参加してもらうなど、懇切に対応している点が評価される。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価にあるとおり、計画以上の取組が行われている点について評価します。</li> <li>・計画通りにプログラムが開設された。</li> <li>・履修生数が目標を達成した。</li> <li>・登録者数が目標を上回っている。</li> </ul>
より一層の改善・進展が望まれる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者がもう少し増えると良いかと思えます。</li> <li>・登録者は目標に達したが、さらに増加するよう努力していただきたい。</li> <li>・新規の履修生数が前年度を下回っているので、広報等の工夫が必要かもしれない。</li> <li>・当県の受講者からレジメが配布されない、文系には少し難しい等の声が聞かれるが改善が見られない。</li> </ul>
その他コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・履修証明プログラムは原子力発電所周辺自治体の職員も受講したいプログラムだと思われ、さらなる受講者数の増加を期待します。</li> <li>・プログラム内容が適切であることを確認し改善していくとともに、受講目的を把握し登録者数を増やしていくためにも、受講生に対するアンケートの実施について検討していただきたい。(昨年度も提案)</li> <li>・万が一の原子力災害などに備え、様々な職種の方に原子力や放射線の知識を持っていただくことは重要と考えている。</li> </ul>

#### ⑤ 見える放射線実習プログラム

評価できる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広く、実施しており、大変評価できます。</li> <li>・参加者も多い点も評価できます。</li> <li>・受講者数（188名）が目標（120名）を上回り、受講生からもアンケートにて、非常に高い評価を得ている。</li> <li>・オープンキャンパス及び長岡技大の学園祭にて学生以外も対象に実施するなど、積極的な活用を行っていることは評価される。</li> <li>・自己評価にあるとおり、計画以上の取組が行われている上、受講生の満足度も高い点について評価します。</li> <li>・当初の予定を上回る受講者数を確保した上で、受講生によるアンケート結果においても高い評価を得ている。</li> </ul>
--------	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者数が目標を大きく上回っている。放射線の理解促進に繋がるとともに、原子力に対して多くの方が感心を持つきっかけになっていると考えられる。</li> <li>・受講生アンケートを実施しプログラムの効果を確認している。</li> </ul>
より一層の改善・進展が望まれる点	
その他コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニークなプログラムであり、他のプログラムへの波及効果も期待される。</li> <li>・VRは理解促進に有効な技術と考えており、原子力発電所や放射線の広報への活用についても検討していただきたい。</li> </ul>
より一層の改善・進展が望まれる点	
その他コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニークなプログラムであり、他のプログラムへの波及効果も期待される。</li> <li>・VRは理解促進に有効な技術と考えており、原子力発電所や放射線の広報への活用についても検討していただきたい。</li> </ul>

### ③ 運営委員会

令和7年度の運営委員会は下記のとおり実施した。

- 7月17日 【書面審議】原子力規制人材育成事業：履修証明プログラムにおける時間数認定について
- 8月28日 【書面審議】履修証明プログラム：令和7年10月生履修希望者の履修許可について
- 9月11日 令和7年度第1回原子力規制人材育成事業運営委員会
- 12月11日 【書面審議】原子力規制人材育成事業：総合学術研究科への改組に伴う大学院プログラム実施要領案の変更について
- 1月27日 【書面審議】原子力規制人材育成事業：日高昭秀特任准教授の任期更新について
- 3月12日 令和7年度第2回原子力規制人材育成事業運営委員会

## ■自己評価

令和7年度の本事業実施状況について、自己評価した結果を以下に記す。自己評価は、①事業全体、②大学院教育プログラム、③学部教育プログラム、④社会人教育プログラム、⑤見える放射線実習プログラムに分けて実施し、それぞれ以下の4段階の区分で評価した。

区分	自己評価
1	所期の計画以上の取り組みが行われている
2	所期の計画と同等の取り組みが行われている
3	所期の計画に比べ、全体の取り組みが遅れているが、一部は同等の取り組みが行われている
4	所期の計画に比べ、取り組みが遅れている

### ① 事業全体

評価	2 所期の計画と同等の取り組みが行われている
理由)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事業実施の点となる事務室としての統括センターの備品整備を継続した。</li> <li>2. 外部機関との連携について、大阪大学が中心となって福島県大熊町、双葉町、飯舘村で実施している浜通り環境放射線研修に大学院生2名が参加し、福島第一原子力発電所事故についての深い知見を得ると共に、他大学等からの参加者と交流した。また、長岡技術科学大学、東京電力ホールディングス、南相馬市、大熊町なども適宜連携を行った。</li> <li>3. 必要な機材の整備等予算関係については、放射線検出モジュールおよび小型空間放射線量測定装置、ガンマ線用シンチレーションサーベイメータ、ノートパソコンを整備すると共に、実習に必要な消耗品（非密封 RI、端窓形 GM 管、解析ソフト（Igor Pro10）等）の購入や、実習で使用するサーベイメータの校正を実施し、品質の高い実習ができるよう整備した。</li> <li>4. 広報活動に関しては、ホームページを通じた広報では適時の更新を実施したほか、ポスター、リーフレット更新・印刷、報告書の作成を行い、関係各所に配布、掲示を行い周知した。また、メール等による履修証明プログラムの関係各所への配信、学務情報システムを通じた大学院生への大学院プログラムの周知を実施した。</li> <li>5. 新潟大学オープンキャンパスにて原子力規制人材育成事業の紹介と VR(仮想現実)放射線観察体験を実施し、放射線や原子力発電を身近に感じていただくことができた。</li> </ol>

## ② 大学院教育プログラム

評価	2 所期の計画と同等の取り組みが行われている
理由)	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 計画通り大学院教育プログラムを継続して実施した。隔年開講科目など昨年度開講しなかった科目を開講し、本プログラムで予定していた科目がすべて実施された。</li> <li>2. 前期課程の登録者数は7名で目標（7名）を達成した。</li> <li>3. プログラムの受講生について、外部連携機関を通じた見学およびキャリア教育を計画通り実施した。</li> <li>4. プログラム参加者向けの放射線取扱主任者受験サポートを開始し、2名の合格者(1種及び2種)を出した。</li> </ol>	

## ③ 学部教育プログラム

評価	1 所期の計画以上の取り組みが行われている
理由)	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. パッケージ型マイナー登録者数（71名）が目標（5名）を大きく上回っている。</li> <li>2. 「放射性廃棄物処理法」の開講により、新規開講科目の全てを開講できた。昨年度に引き続きほぼすべての新設科目で定員を上回る履修希望があり、パッケージ型マイナーに登録していない者も含めて、非常に多くの学生に原子力について学ぶ機会を提供できた。</li> <li>3. パッケージ型マイナーの修了認定については、今年度は4名にとどまっているが、登録者数は順調に増加しているため、修了認定者数についても今後増加していくものと考えている。</li> </ol>	

## ④ 社会人教育プログラム

評価	1 所期の計画以上の取り組みが行われている
理由)	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 計画に沿ってプログラムを運営し、実習に遠隔からも参加があった。</li> <li>2. 令和7年度履修生数（7名）が目標（5名）を上回った。</li> <li>3. 入学式（オンライン）を開催し懇親会で履修生相互の情報交換を行った。</li> <li>4. 今年度5名の修了者を認定し目標を達成するとともに、修了式を実施し修了生と教員の意見交換を行った。</li> </ol>	

⑤ 見える放射線実習プログラム

評価	1 所期の計画以上の取り組みが行われている
理由)	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 受講者数（198名）が目標（120名）を上回っている。</li><li>2. 受講生に対するアンケートにて、非常に高い評価を得ている。</li><li>3. オープンキャンパス及び長岡技大の学園祭などにて学生以外も対象に実施した。</li></ol>

---<お問い合わせ先>-----

**新潟大学研究統括機構 原子力規制人材育成事業統括センター**

〒950-2181

新潟県新潟市西区五十嵐2の町 8050 番地

総合研究棟(物質・生産系) 254 室

Tel/Fax 025-262-6463

E-mail [apr-kisei@cc.niigata-u.ac.jp](mailto:apr-kisei@cc.niigata-u.ac.jp)

Home page <https://www.irp.niigata-u.ac.jp/business/apr-kisei/>

